

そう だい
総 題 「エズラ記とネヘミヤ記」

だいに か
第2課 ネヘミヤ

すずきゆうと
鈴木優人

いち あんそくにち ご
1. 安息日午後

せんしゅうまな しんでん さいけん ほしゆう どれい だいいちじきかん かえ おこな つづ
先週学んだように、神殿の再建のために捕囚(奴隷)の第一次帰還(帰ること)が行われ、続いてエズラと
とも エルサレムに帰ることを望んだ祭司、王族、12の家族たちがエルサレムを完成させるために第二次の帰還を
は 果たしました。

この民の二つのグループがユダに戻ったことは、神様の約束の部分的な成就(預言の通りになること)でした。
しかし、(エルサレムの)周辺国が強力なイスラエル人を恐れたために建設は反対され、再建計画の残り
の部分は放棄されてしまい、一部の人達はペルシャに残されたままとなりました。
そこで神様は約束を実行するためにもうひとりの指導者をお立てになりました。それが、ネヘミヤです。

に にちようび わる し う
2. 日曜日：悪い知らせを受けるネヘミヤ

ネヘミヤのもとに悪い知らせが届きました。

きょうだい
兄弟のひとりハナニから、すでに先祖の地(エルサレム)に帰還(帰ること)していた人々の状況が悲惨
じょうたい
(状態がとてもひどい)であることが告げられたのです。

なんと、エルサレムは再建できておらず、敵に城壁を壊され、町が荒れ果ててしまっていたのです。

ユーフラテス西方の人々が抗議文を送ったことによって、アルタクセルクセス王が工事を中止させたのでした。

しんでん かんせい
神殿は完成していましたが、そこで奉仕する人たちがエルサレムに住むことができなくなっていたために、神殿
は機能していませんでした(礼拝することが出来ませんでした)。

ユダの人たちは神様に栄光をお返しし、礼拝するために帰ったにもかかわらず、それができていなかったのも、
ネヘミヤは悲しみました。

それでも、ネヘミヤは神様に頼り続けました。

かれ
彼はただひたすらひざまずいて祈りと断食に専念(集中)したのでした。

さん げつようび いの
3. 月曜日：ネヘミヤの祈り

ネヘミヤは次のように祈りました。

いちかみ いだい いく そそ ごせつ
1. 神よ、あなたは偉大にして、慈しみを注いでくださる。(5節)

にわたし みみ かたむ 2. 私に耳を傾けてください。(6節)

さん つみ こくはく 3. 罪を告白します。(6, 7節)

よん やくそく おも お 4. あなたの約束を思い起こしてください。(8, 9節)

さん われわれ あがな 3. あなたは我々を贖われました。(10節)

にわたし みみ かたむ 2. 私に耳を傾けてください。(11節)

いち かみ はんえい あわ あた 1. 神よ、繁栄と憐れみを与えてください。(11節)

この祈りは交差対句法(カイアズマ)という特殊な文構造になっており、文の外側(最初の1)と外側(最後の1)、内側と内側(2と2、3と3)が対になっている(似ている)富士山型の美しい祈りになっています。

この祈りの中心はどこにあるかという、神様の約束を明確に述べている8節にあります。

神様の、「不忠実なときに民を散らす」約束と共に、「また私たちを連れ戻し、すべてを回復する」という約束を思い起こしてくださいとネヘミヤは祈っているのです。

神様はわたしたちが絶望にいるときにこそ、約束を信じ、神様にはっきり主張することを願っておられます。

4. 火曜日：率直に話すネヘミヤ

ネヘミヤは献酌官として王に仕えました。

ですから、王ととても近しく接することができたのです。

献酌官は王が病気になるたり死んだりしないように、飲み物の試飲(毒が入っていないかどうか試しに飲むこと)をしていたので、大変尊敬される高官だったようです。

ネヘミヤは、この地位を用いて王に接近し、ユダの状況を王に話せるように神様に願い求めたのでした。

さて、ハナニから悪い知らせを受けてから4ヶ月間、ネヘミヤは祈りと断食を続けていました。

すると、王はネヘミヤの言葉をきき、好意的におうじるよう(良いと思うように)になったのです。

ネヘミヤは献酌官の任を解かれ、ユダの領地を治める長官に任命されたのでした。

これは神様がアルタセルセス王の心を動かしたからです。

ネヘミヤは王とのプライベートでも親しくなり、具体的な(ハッキリと)願いを言う前から王はネヘミヤを助けたいという気持ちになっていたことがネヘミヤ記2章から読み取れます。

5. 水曜日：派遣されるネヘミヤ

王はネヘミヤにユーフラテス西方の長官たちに宛てた手紙を持たせ、ネヘミヤがやり遂げなければならないことのお膳立て(準備)をしました。

また、木材の調達をできるように手配をしてくれました。

しかし、周辺国の指導者たちはネヘミヤを遠ざけていました。

長官たちに伝えられた要求が問題を引き起こしたからです。

それは、ネヘミヤが重要な任務を帯びて、軍隊の護衛を受けてエルサレムに来たことが周辺の民のねたみを引

お
き起こしたことでした。

かれ (エルサレムの周辺しゅうへん たみの民) はネヘミヤの計画けいかくを批判ひはんてき的に見ており (良くよ おも思わないで)、成し得る限りのことな え かぎをして妨害ぼうがい じゃま (邪魔) をしようとしたのです。

ろく もくようび にんむ そな 6. 木曜日：任務に備えるネヘミヤ

かみさま にんむ ひつよう あた
神様はネヘミヤがこの任務にんむに必要なものをすべてお与えになりました。

それでも、ネヘミヤは慎重しんちょう いのに祈りながら前まえへ進すすんだのです。

かみさま とも し じぶん かんが すす
つまり、神様が共におられることを知りつつ、自分じぶんがなすべきことをじっくり考かんがえながら進すすみました。

じょうへきさいけんけいかく おこな じゅんび つぎ ほうほう
ネヘミヤが城壁再建計画じょうへきさいけんけいかくを行おこなうためにした準備じゅんびは次つぎのような方法ほうほうでした。

けいかく ひみつ せつこうかつどう
1. 計画けいかくを秘密ひみつにし、斥候活動せつこうかつどうをした。

したしら けいかく ね
2. すべてのことにおいて下調したしらべをし、計画けいかくをよく練ねった。

にんむ せつめい かみさま はな おう ことば つくわ
3. 任務にんむの説明せつめいをするときは、まず神様かみさまがしてくださったことを話はなしてから、王おうの言葉ことばを付け加つくわえた。そして、献身けんしんを求めもとる前まえに励はげました。

かみさま だんじき いの おう ひとびと ころろ そな
神様はネヘミヤの断食だんじきと祈りいのによって、王おうだけでなくユダの人々ひとびとの心ころろも備えそなえさせてくださいました。

なな きんようび けんきゅう 7. 金曜日：さらなる研究

いの ひと わす
ネヘミヤが祈りいのの人ひとであったことは忘わすれてはなりません。

おう たす なに な と
エズラもネヘミヤも王おうの助けたすがなければ何なにも成なし遂とげられませんでした。

かみさま はたら おう ころろ か
しかし、神様かみさまの働はたらきによって王おうの心ころろが変かえられていったのです。

じぶん なに かんが ひつよう
そして、それだけでなく、自分じぶんには何なにができるのか、ということもよく考かんがえる必要ひつようがあります。